

「会議原則」に則り、議員の発言は「言論の府」として最も尊重すべきもの 3月議会で取りやめになった一般質問は、代わる場を提供すべき

10月28日、日本共産党市議団で「新型コロナ禍における議会運営についての申し入れ」を行いました

3月議会は、新型コロナ感染症が拡大する中、開催中の3月議会が3月2日から2週間の休会となりました。再開した議会では、日程が変更され、一般質問は取りやめとなりました。当初予算を審議する重要な議会で、審議時間が大幅に縮減され、本格的な議論の場となる一般質問が取りやめとなったことは、新型コロナ感染症という特別な事情があったとはいえ、少数会派は協議の場に参加もできず、議会で最も重要な議論の場が削られました。一定期間の休会はやむを得ない面もありましたが、一般質問は再開後の会期中に何らかの形で実施する、または次の議会も含めて、発言の機会を保障するよう最大限の努力をすべきです。

議員の「発言権」取り上げは許されません

3月議会の一般質問中止にあたり、「会派代表者会で、今回一般質問をできなくなる議員へは、その後何らかの形で発言の場を保障すべきと意見があった」との議会事務局説明でした。そのため、日本共産党市議団は、3月議会の一般質問に

代わるものとして、6月議会で上野美恵子議員が一般質問をしました。ところが9月議会終了後、「共産党は、6月に上野議員が一般質問したので、今期は那須議員の一般質問1回のみ」と言われ、来年3月議会の一般質問ができなくなりました。

議員の発言権保障は、議会の第1義的課題

民主的な議会のルール、基本原則が「会議原則」です。ここでは、「議員平等の原則」としての「議員の発言権」、民主政治に不可欠の要素として「発言自由の原則」が規定され、議員の発言権保障が議会の第1義的課題とされています。

3月議会での一般質問中止は、議員が「平等の原則」に基づき一人一人に保障された発言の権利・機会を奪うものです。「言論の府」として「発言権」の保障に最大限努力し、できなかった一般質問は、代わる場を補償すべきです。

【控室から】 核兵器禁止条約が発効！

なすまどか

10月24日、ホンジュラスが核兵器禁止条約を批准し、発効に必要な50か国に達しました。これにより核兵器禁止条約は、90日後の2021年1月22日に発効することになります。同条約は、その開発、実験、生産、保有から使用と威嚇にいたるまで全面的に禁止し、核兵器を違法と明確に定めています。

学生時代、広島の被ばく者から話を聞く機会がありました。「被ばく者は、原爆を投下した米国を責めることよりも、同じ苦しみを誰一人として経験させないために力を尽くす」今でも忘れられない言葉です。

核兵器廃絶の声を上げ続け様々な運動を広げてきた被ばく者、平和を願う多くの国民、核保有国の圧力に屈せず条約を批准した多くの国々の連帯が、今回の条約発効に至る決定的な力となりました。

唯一の戦争被爆国である日本政府の対応はどうか？加藤勝信官房長官は、核廃絶というゴールは共有しているとしながらも、核抑止力の強化など現実的な道を追求することが適切だとの考えを強調し、同条約に署名しない方針を改めて示しました。非人道的な兵器を抑止力とみなし米国などにモノが言えない対応に怒りを覚えます。

被ばく者の苦しみや願いに真摯に向き合い、条約への署名・批准を行う政府を誕生させるために頑張ります。

日本共産党 市議会だより

熊本市中央区手取本町1-1 3階
発行：日本共産党熊本市議団
上野みえこ なすまどか

NO. 1209
2020年11月1日号
電話 328-2656
FAX 359-5047



メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp
HP：共産党 熊本市議団

検索



新型コロナ禍の中、不安や困難にんえ

日本共産党市議会だより 2020年11月1日号 (No.1209)

障がいを持つ人たちが安心して暮らせる社会へ

「熊本市障がい者・児の生活を豊かにする会」こんだん会がひらかれ、党市議団からも参加

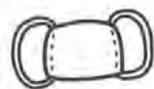


10月25日、熊本市の「希望荘」で、「障がい者・児の生活を豊かにする会」のこんだん会が開かれました。新型コロナ感染症の感染拡大の中、会の活動も休止状態になり、ストレスや不安を抱える障がい者の方々の生の声を聞きとる趣旨で行われました。三密対策で参加者数に制限が設けられた会議室で、2つの分散会形式で行われ、率直な声が寄せられました。



感染予防への不安、感染したらという不安 etc

- ・デイサービスの送迎バスが三密になっているので、心配している。
- ・施設に入所している人と会うことができなくなってつらい。
- ・マスクがなくなると心配、使い捨てマスクも洗って取っている。
- ・感染したら、家族の日常生活支援がしてもらえるのか不安。
- ・感染が心配なので、極力外出は避けている。
- ・同居の母が家に閉じこもるようになった。
- ・作業所への通所のバス電車等は三密なので、感染がこわい。



受けとめてほしい私たちの声・・・熊本市に望むこと

- ・「さくらカード」だけは絶対になくさないでほしい。使いにくいプリペイドをやめて、無料のパス券にしてほしい。市内と議会の行き来でトラブルになったので、利用しやすく改善してほしい。
- ・リモートでの会が増えているので、公共施設等への Wi-Fi 環境を整えてほしい。

コロナ禍で、切実に困ったこと

- ・デイサービスが閉まって利用できなくなり、お風呂に入れなくて困った。その後、別で利用を確保したが探すのに苦労した。
- ・感染予防で家にいることが増えた。電話やメールでのやり取りはできるが、伝えられる内容に限りがあり、ストレスである。
- ・5月に病気で入院、手術となったが、面会謝絶で身の回りのことがとても大変だった。
- ・障がい者の歯科は限られており、行けない、行きにくいで困った。
- ・電子体温計の電池が売り切れになったのは困った。
- ・作業所の商品の販売先が減って、仕事が減っている。
- ・何でもはできないので、作業所に居場所がなくてつらい。

障がい者福祉の拠点「希望荘」

障がい者にやさしい施設へ 使いやすいトイレへ、改修をお願いします

懇談会では、会場となった「希望荘」のトイレを改修してほしいとの声も出され、さっそく現況調査を行いました。

流すボタンが押しにくい、手洗いのレバーが使いにくい、古くなったトイレ、そろそろリニューアルしてほしいものです。

一般用のトイレもぜひ洋式への改修を。

